評価から評定への総括方法

◇評価から評定への総括（都教委）

観点別学習状況の各観点は、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものです。それに対し、評定は、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものです。このような関係から、観点別学習状況の評価結果を総括していけば、評定に至ると考えることができます。

◇観点別学習状況（各教科の意欲・思考・技能・知識など）の評価の基本的な考え方

○各学期の評価が同じ場合は、総括も同じ評価にする（例：ＢＢＢ　→　総括Ｂ）

○ＡＢＢのように、それぞれの観点で、評価結果が同じでない場合は出現率の高いものを重視しつつ、学年の目標、観点の趣旨と照らし合わせ、その実現状況を総括的に評価する。

○ＣＢＡのように学習中の評価結果が１学期から３学期にかけて向上していった場合、逆にＡＢＣのように１学期から３学期にかけて下降していった場合は、学習状況全体をとらえつつ、学年目標や観点の趣旨と照らし合わせ、その実現状況を総括的に評価する。

◇観点別評価の具体例

１学期末	２学期末	３学期末	学年末
A	A	A	A
C	C	C	C
A	A	B	A（B）
C	C	B	C（B）
A	B	B	B
C	B	B	B
C	B	A	B（A）
A	B	C	B（C）

◇評定（各教科それぞれ１つずつ）の基本的な考え方

○総括した３つの観点の評価が同一の場合は、評定も同じにする。（例：ＡＡＡ→３）

○総括した３つの観点の評価が同一でない場合は、出現率の高いものを重視しながら、学年の目標や観点の趣旨に照らし合わせて実現状況を把握し、評定する。

◇評定の具体例

知識技能	思考力判断力表現力	学びに向かう力	評定	知識技能	思考力判断力表現力	学びに向かう力	評定
A	A	A	3	A	A	B	3
A	B	B	2	B	B	B	2
C	B	B	2	C	C	B	1
C	C	C	1				